

錢卜

二三の千を變すと返す返す論へり、松井暉星が此筮法を破れる説に、是變爻の法にては、一生涯に幾千の筮を爲すと雖ども一卦と、松井暉星の卦に遇ふこと無く、かつ固より易道は、變化を尙む事なる故に、二爻變もあり、又は三爻四爻五爻もあり、六爻皆變の法なるを以て、不變の卦と、二爻以上の變と云ふ者は、絶て有ることなし、按ふに此は彼邦にて、感動象數易法の取披ひは、一爻變の法なりけるを、調りて擲錢法に轉じ、其を我邦に傳へしを、著筮に移し、轉じて、彼八除の法と爲たるなり、然ればこそ上卦より卦を起せり、是感動易の遺法なればなり、尋でまだ一人有りて、其法に據りて、下卦より先に卦を設くる法に爲たるが、即今の俗筮式なりと言は、實に然る事の論ひなし、抑是徒の然る筮法どもよ、凡て觀易の眼高からず、姬昌が僞文に欺かれて、其を批正參考する事を知らず、強ひて努めて荷ひ出せる愚法等にて、太畀神聖の古面目には都て契はぬ事なれば、一切に掃除して、行ひ用ふる事なかれ。

〔天保十年本朝年代記〕用八卦錢占ひ

先吉凶を占ふとき、信心して元亨利貞を何べんもとなへながら、世に三錢を手に持ち、手のうちにて上下ませ合せ、そのまゝ、一せんづゝたてにならべて、世にのうらおもてを見わけ、上の圖に合せて下の斷りをみるべし。

卦ごと末へ願望待人、失物方角、病事等の斷をえるす。

☰☲ 離南 火中女

此卦の離は易にはなるとあれば、またしき中か、住所かにはなる、ほどのくらうあるべし、又あきらかといふ心もあれば、万事たゞしくするときは、天のめぐみをうけて仕合よかるべし、何ごともつゝ、しみてよし、願望かなふべし 待人きたる 失物うせずかくさず 方角にしきた

病事よし

☷☵ 坤西南 土母

此卦の坤は陰の卦なるゆゑに、陽にまたがふなり、万事人にまたがひてよし、尤人の世話事くらうあるべし、平生おごるか、目上の人に万事ふそくの心有ば、あしく口せつごと有べし、正しく慎て